



## ビジネストーク

# 「大将の戒め」

頭取 大道 良夫

弊行前会長・頭取の高田紘一氏が、去る3月2日亡くなりました。ここに、生前の故人へのご厚誼、ご厚情の数々に對しまして、改めて厚く御礼を申し上げます。

まだまだ静かに思い出に浸れる心境にはございませんが、高田さんのお言葉などあれこれを思い出します。平成6年に日本銀行から当行へおいでいただき、初めてお会いした時から、私自身にとりましては、まさにカルチャーショックの連続でした。

開口一番、「滋賀銀行はみんなネクタイが暗い。葬式みたいだ」との言葉に、驚きをもつて一斉に明るいネクタイに取り替えたことを思い出します。

以後、読書家の高田さんならではの含蓄ある言葉に託された、経営上の、また人として生きるうえでの多くのお教えをいただきました。

「勘・断・心」。高田さん自作の処世訓です。「勘」は先を読む先見性、「断」は速やかな決断、「心」はきめ細やかな気配りと目配りで「気合」を結集すること、とご説明いただきました。

「相互同感」。アダム・スミスが著書「道徳感情論」で述べている言葉ですが、これを受けて高田さんは「〃知情合一〃の精神で、当行が正しいと考える理念や方針を率直に開示して、お

客さまとの「相互同感」により共存共栄を図ること」と私たちに呼びかけられたのでした。

まさに、意識改革の連続でありましたが、中でも「大将の戒め」は、今も心に深く残っています。「大将は、敬われているようで絶えず落ち度を探られ、恐れられているようで侮られ、親しまれているようで疎んじられ、好かれているようで憎まれているものじゃ」「家来はな、惚れさせねばならぬものよ」。徳川家康の言葉です。高田さんは、新任支店長への訓示でたびたびこの言葉を引用、マネジメントの要諦をわかりやすく説かれたのでした。「寛嚴をわきまえた人間的魅力豊かな上司としての器量を磨け」との高田さんの教えが、亡くなられた今、改めて強く胸に響きます。

私どもは「大将の戒め」などの数々の言葉に込められた高田さんの熱い思いを改めて想起いたすとともに、高田さんが常に標榜された「健全と進取」の気概を発揮して、地域・お取引先との「共存共栄」をさらに深めていくことこそが、残された私たちの使命と考えます。高田さんから「なかなか、やるじゃないか」と言っていただけのような努力する所存です。

何卒、今後とも、皆さま方のなお一層のご愛顧、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。